

# アラン諸島の自然と文化

黒沢恵美子\*

## I. 問題の所在

アラン島へつづくまで、ジョン・M・シング(1871-1909)が1898年から4年間、夏の間にアラン諸島を訪れ、アラン島”The Aran Island”を書いたことで島の名が有名となった。この本の中で帆船に乗ってアランへ着くまで次のように書いている。

「すさまじい波がコースの右からうねりながらやって来た。へさきは立ち上がり、すさまじい音響と共に、次の波の間に落ちていった。水煙が垂直にたちあがった。……我々は別の波に出会うその僅かの間だけ一息つくのがやっとであった。……船頭は ‘Siubhal Siubhal’ (走れ走れ)と叫び、やがてその聲は悲鳴に近いものになっていた。……白い泡が私の膝と目のまわりでビシャビシャと音を立て流れていった。curragh (船の名前)はまた横ゆれと上下動を繰返していた。」

1990年の夏の午後、ゴルウェイの喧噪から抜け出して、アラン諸島イニシモア島行の船に乗ったのだが、海面は緑色で波頭に白波がたっていたから、風速はそれほどではないのに横ゆれと上下動がひどく、水しぶきをあげて進む船中は、船酔の乗客で大変であった。Synge の帆船程ではないにしても、観光客の顔は次第に早く着くだけが目的ではないかと思わせるほどよく揺れた。北大西洋海流がこれ程まで強いものかを印象づけるには十分なものであった

**歴史と観光：**ダブリンの賑やかな町の中で観光客を見ると、ドイツ人の若者、ツアーを組んだ老人組、日本人の中年ツアーの人々が入り混じり、訪れる観光地とは、壊れた教会か、くずれた修道院、その中で日本人ツアーはさすがに豪華で、田舎町の館(やかた)に泊まりこむ。それ以外は自然の景色だけしかない。加えて物価はイングランド

より高い。これも観光なのだと割り切るには少し時間が必要であった。つまり自然以外の人工造営物の総てが歴史的遺産であると同時に、歴史を物語っているという当然のことを知らされたにすぎなかった。残っているから美しいのではなく、壊され残ったものの中に歴史の経緯をご覧なさいと語っているのであった。古代ローマ時代ヒルベニアと呼ばれたアイルランドは、紀元前5世紀頃からケルト系諸種族が渡来して、ゲール人を形成した。小国から5つの王国に統合され、うちコノート王国が3世紀半ばにウェールズからブリタニアに侵入し、その間聖パトリックの来島(432年)によってキリスト教が広まった。8世紀末ノルマン人が侵入してきたが、ケルト諸王の抗争で対抗できず、1014年ブライアン王が撃破したが戦死し、1116年レンスター王マクマローがイギリス王ヘンリー二世に救援を求め、結局ヘンリー二世によって征服された。19世紀の終わりまで暴力と衰退と没落の歴史が続いた。1845年の飢饉で、850万の人口のうち70万人がなくなり、100万人が北アメリカへ移住した。1922年独立を獲得し、1949年イギリス連邦から離脱しアイルランド共和国となった。しかしアルスター(北アイルランド)はもどってこなかった。

このような歴史的経緯の中で、アイルランド人は明るい、少なくともイギリス人のタイプとは異なる開放的で人なつっこさがある。W・イエーツ、J・スウィフト、G・B・ショー、J・ジョイスなどを送り出した国もある。

外国きて、外国人(そこの國の人からみれば)になりきって、そこの國を見る場合、自分の國の生いたちと余りにもかけ離れた外国の文物事象と、真正面から取り組まざるをえない苦悩を旅行者の

\* 北海道大学教育学部研究生

# OILEÁIN ÁRANN

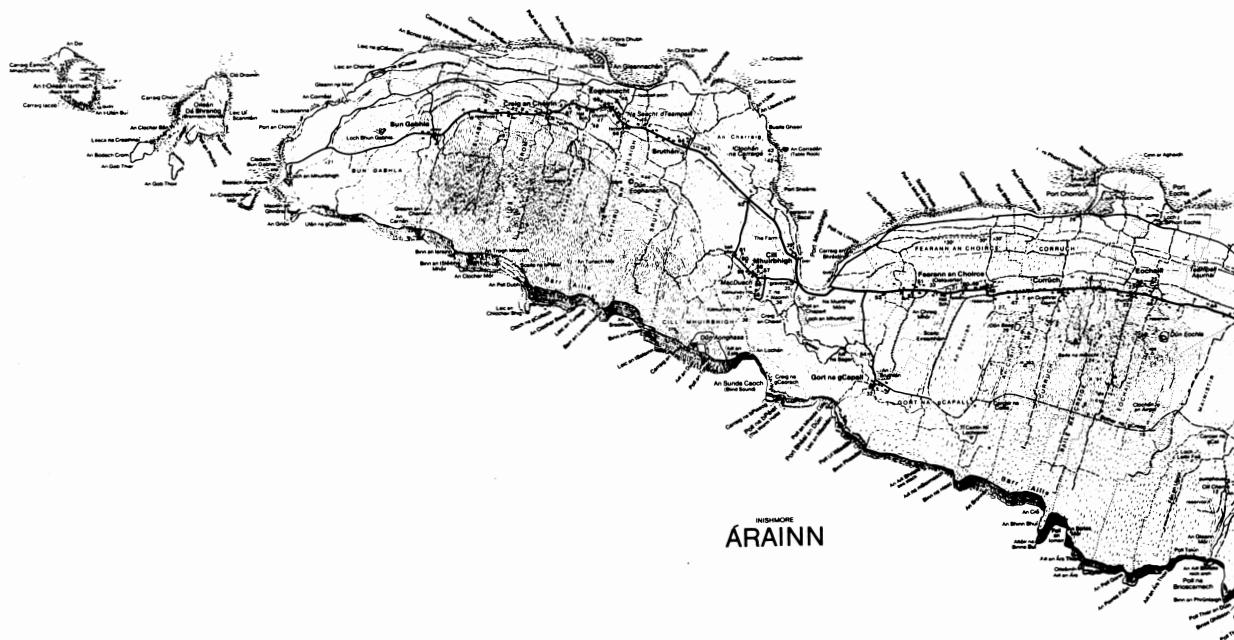
THE ARAN ISLANDS, CO. GALWAY, ÉIRE

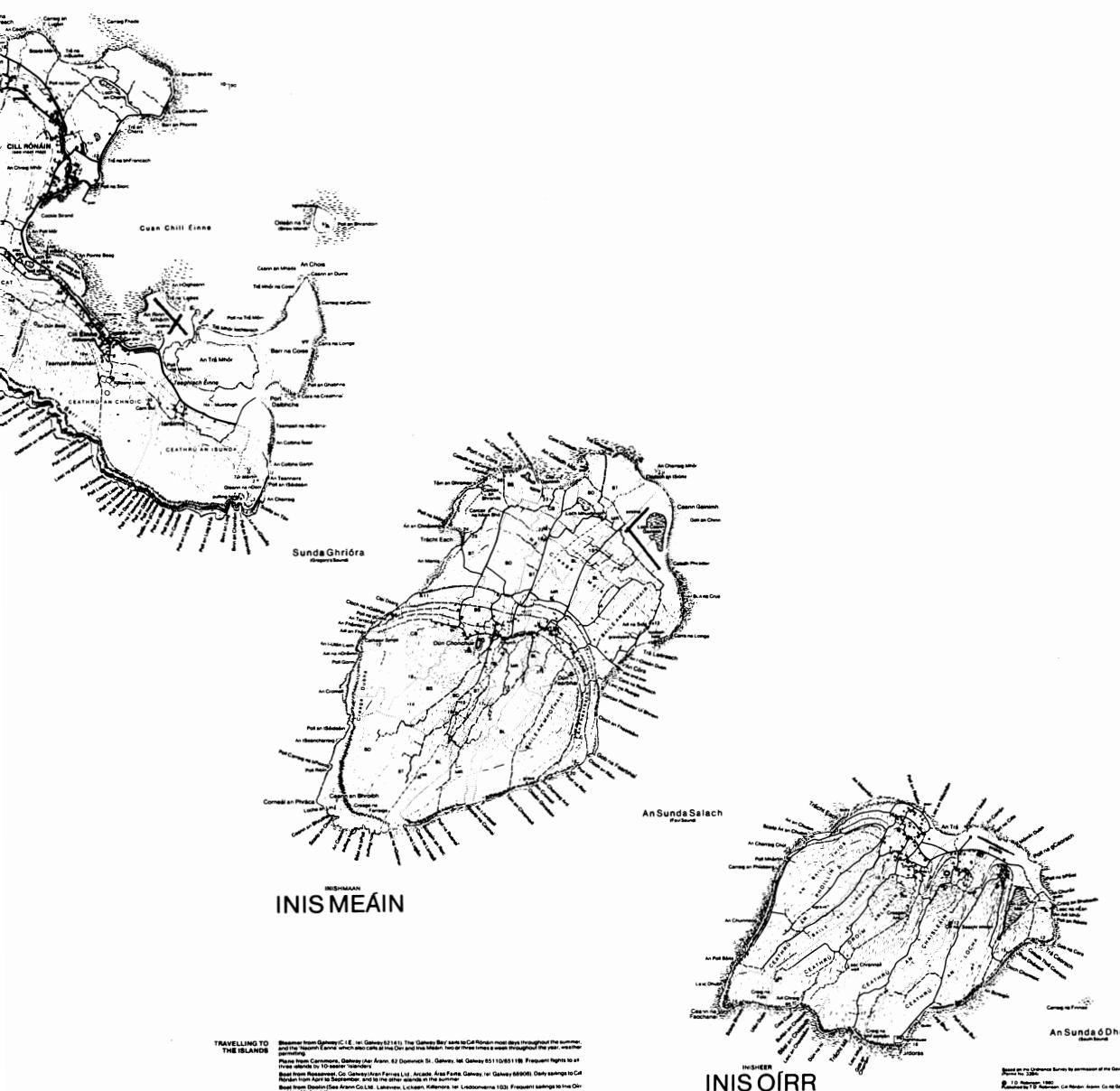
DERIVATION OF THE NAME  
The element 'ára' occurs in a number of placenames in Ireland and Scotland, and seems to signify a ridge. It derives from the Old Norse 'ára', a ridge, or the land, hence by extension the back, and in the back or ridge of a hill.

SCALE 2.2 inches to the mile  
km 0 1 2 3  
The vertical scale of the cliff-features of Aran is approximately doubled for clarity; the cliffs are nearly 300 ft. at their highest.  
The 10-km. National Grid is shown in the margins.

Lia

An Sunda ó Thuaidh





誰もがもっているが、本当に解るにはそこに住んでみないと解らない。しかし短い時間で少しでも正確な観察をすることが出来るとするなら、地理学的手法に勝るものではなく、これほどの楽しみもまたないのでなかろうか。

**観光と地理学：**観光白書で日本人海外旅行者966万人(平成元年)のうち、20~40才代が男女ともに70%弱で、そのうち女性の20才代が153万人(女性の41.4%)を占めている。行先ではアメリカ、韓国、香港、台湾が多いが、アメリカの43%はハワイ、18%はグアムとなるから、海外旅行は日本に近いアジアかハワイとなってくる。ヨーロッパではフランス66万人、西ドイツ62万人が多く、イタリア、イギリス、スイスが30万人となる。アイルランドの資料はないが至って少ないことは確かである。湾岸戦争も終わったので、海外旅行の落ち込みは近いうちにもとに戻ると思われる。そして、歩き回った若者たちはいづれアイルランド、そしてアラン島へも行くかも知れない。問題は商業ベースのツアーレイシヨウにせよ、一人歩きにせよ、“地球の歩き方”(最近少しよくなってきたが)をもって街角で読むのではなく、地誌の範疇の中で、系統的な組織的な地域のなりたちと、現実の問題点を比較地理学の手法を取り入れて観察することができるよう、中学校や高等学校の地理の時間でその基礎をつけて行けば、やがてヨーロッパの若者と同じような観察ができるようになるのではないかであろうか。そこでここではアラン諸島のうち一番大きな島のイニシモアの自然と城址及び人文現象としての農業に重点をおいて、若干のコメントをおこないたい。

## II. アラン諸島の概観

アラン諸島はアイルランドのゴルウェイ湾にあるイニシモア(Inishmore), イニシマン(Inishmaan), イニシヤ(Inisheer)の三島からなり、住民はおもにゲール語(アイルランド語)を話すこと有名である。アランという名はアイリッシュ語のAraに由来し、その意味はKidney腎臓で、中の島のイニシモア島が似ているところから名付けられた。また Ard-Thuinn「波の高いところ」という意味ともいわれる。北緯53度、西経9度に位置し、イニシモア島は30.9km<sup>2</sup>、イニシマン島9.1km<sup>2</sup>、イニ

シア島1.6km<sup>2</sup>、島の人口は800,290,275人で総計人の小さな島の集まりである。

**気候：**アラン島は西岸海洋性気候で、おだやかで、湿気があり、年較差が少ない。海流の影響が大きいので、夏の気温は、16°Cをこえることはない。また霜や雪はめったに降らない。年気温と日気温の差が小さい。メキシコ湾流の延長の北大西洋海流がアイルランド西海岸を流れるから冬でも0°C以下とはならない。しかし島の毎日の天気はアイルランド西岸と同じ様に変わりやすい。空は数時間で晴れたり雲ったりし、雨の日でも数時間太陽が出るという変わりやすい天気で、岩の小道に溜った水たまりが浅い湖のような幻想をつくるので、土地の人は一日に四季がくるという。降水パターンはアイルランド西岸と大体同じで、湿めた南西風が直進し、その矛先を受け、西海岸よりも年降水量が若干多い。晚秋、冬、夏の最も典型的なものは細雨(ひさめ)が何時間も続くときに濃い霧が発生し、温暖だが湿っている日を“la bod”穏やかな日という。このガスはゴルウェイ湾岸にたちこめるから、漁夫には危険をともなう。霧にまかれた漁夫の話が残されている。

アラン島の燈台は19世紀に建ったのが最初で、イニシモアとデュン・エオコラの最高所に作られたが、高すぎて、南側の崖近くからは見えないのでロックアイランドに立てかえられた。またイニシモアの南東沖ギント・オ・ファイルダ尔斯にも建っている。また気象条件によって Hy Brasil または Tir na nog と呼ばれる蜃氣楼がみられる。一方冬には9月末から10月始めにかけて疾風がしばしば現れる。疾風(32~68マイル)はしばしば発生し、風力10, 11に達する。1940年 GortnagCapallと Uilmurvey の間のイニシモアの狭い首に当たるところで巨人のような波がおしよせてきた。しかしこれは地震津波の可能性もあるのだが、三つの島の岬にあった集落がなくなったと記録されている。( Rodericko'Flaherty: Chorographical Description of West Connacht [南コンノート(アイルランド)地方誌] 1684.)

**自然景観：**イニシマンとイニシア両島はよく似ていて最高点が島の中央部に近く83.8mと64.8mの低平な島であるのに対して、大きいイニシモア島は西端部に168.9mの高所があって中央部が121

m, 東部が60mと東にさがる。三島とも景観はよく似ていて、傾斜は北東側のゴルウェイ湾方向にさがる。そのなかでの大きいイニシモア島は海岸段丘が8段、急斜面や崖で境されている。段丘崖は3~5mの石灰岩の露出したもので、北東岸に近づくにつれて下位段丘の巾は狭くなる。上位段丘は1km位の巾をもつ。北海岸に低い砂丘がみられるがイニシマンの砂丘はイニシモア島から供給されたものという。南海岸は最高400ft(122m)をこえる断崖絶壁で海におちる、3島とも上部石炭紀の石灰岩から構成され、断崖では石灰に挟まれた頁岩が何層にも重なっているのがみられ、それらは南西へゆるやかに傾いている。イニシモアの西端や東端に花崗岩の大きな丸い石を見ることができる。この花崗岩は石灰岩の上にのっているから、民間伝承ではこれをコネマラに住んでいた怒った巨人の飛び道具だという。この漂移石はビュルム氷期にシャノン川流域南端まで大陸氷河が押し出し、ドラムリンはゴルウェイ湾からシャノン河畔まで分布し、エスカーも内陸部に残された。アラン諸島も当然氷河による浸食とモレーンの堆積があり、その結果が花崗岩の迷子石となったのであった。花崗岩はアラン島の北部ゴルウェイ地区に広く分布しているから北岸からアランへやってきた迷い子なのである。漂堆積土の被覆層は場所によって流出し、石灰岩が露出する。加えて降水量が多いのでカルスト地形を作るはずだが、頁岩層があるため、地下水が傾斜面に沿って流下するので村の水の供給に役立つことになる。また間欠流はイニシモア島のスラサンにみることができる。

夏期にしばしば干ばつが発生する。数週間雨が降らないと表流水は乾き、農民は家畜の水を得るために苦労する。そこで1920年代以降イニシモアの農民は政府の補助金によって雨水用の貯水槽を多く設けた。この水槽はセメントで石炭岩のわれめを塞いだ平板で作られ、表面積6平方メートルから9平方メートル、そのかみてにプラットホームを作る。他の島では農家と畑が近接しているので水を家畜にやるのにそれ程労力が必要でないからイニシモアに限られる。またアラン島の排水で興味深いものにイニシモアのアントロックモアやブルナクアパルでみられる乾いた湖(turboughs)で、石灰岩の浅い窪地でおきる一時的な湖である。雨

が多いとき地下水が上昇して浅い窪地に水がたまり、数時間で満水になる。強い雨のときは周辺の草地を洪水にしてしまう。しかし夏には地下水は湖床のさけめを通して排水する。干ばつには完全にはしあがり、牛や羊の一時的放牧地となる。

### III. アランの城砦

イニシマン島のドルメン、イニシア島の小さい方の巨石と巨石集落が19世紀中頃発掘されたが、そのなかでもイニシモア島のドゥン・エンガスの城砦が有名である。海拔91mの断崖の上に、D字上に4重の石の粗びきの壁を作り、半円形の東西の直径は42m、その面積は4.5ha、西側には逆茂木と思われる石灰岩の細長い石を数万個も立て内側の城壁は底辺6m、頂部で2mのテラスとなっている。砦の内部には建物があったのであろうが破壊されている。城壁の外側には地下道がある。いろいろと説があるが、ケルト侵入以前か、その前後ではなかろうか、ミリオーネ(イタリアの百科辞典、2巻、p432)に、"石を空積にしたつり鐘状の構造は南イタリアのプーリア地方の円錐形住居やサルデーニヤの円錐形石造物の遺跡と類似している"とあり、巨石時代の遺跡として貴重である。

ドゥン・エンガスの東方にドゥシャタールの遺跡、丘の上のドゥン・エオクラの遺跡があるが後者はイギリスの南イングランドにあるものと類似する、さしあたり日本では山城、平山城の部類に入るのであろうが如何せん規模が大きい。時代が判明することを期待したい。



ドゥンエンガスの正面



（写真）ドンエンガス本丸から外側を望む  
（左）石垣の内側  
（右）石垣の外側

石灰岩の逆茂木

### ドン・エンガスの城砦

西ヨーロッパの最も見事な有史以前の城砦の1つで3重の積み石の城壁とその外側に4重めの城壁が残されている。外側の城壁に囲まれている面積は11エーカーである。

2重めの城壁の内側には防衛の目的で作られた逆茂木の石が30フィートにわたって立っている。内側の壁には控え壁(犬走り)が作られているが、その壁は19世紀にかなり修正された。

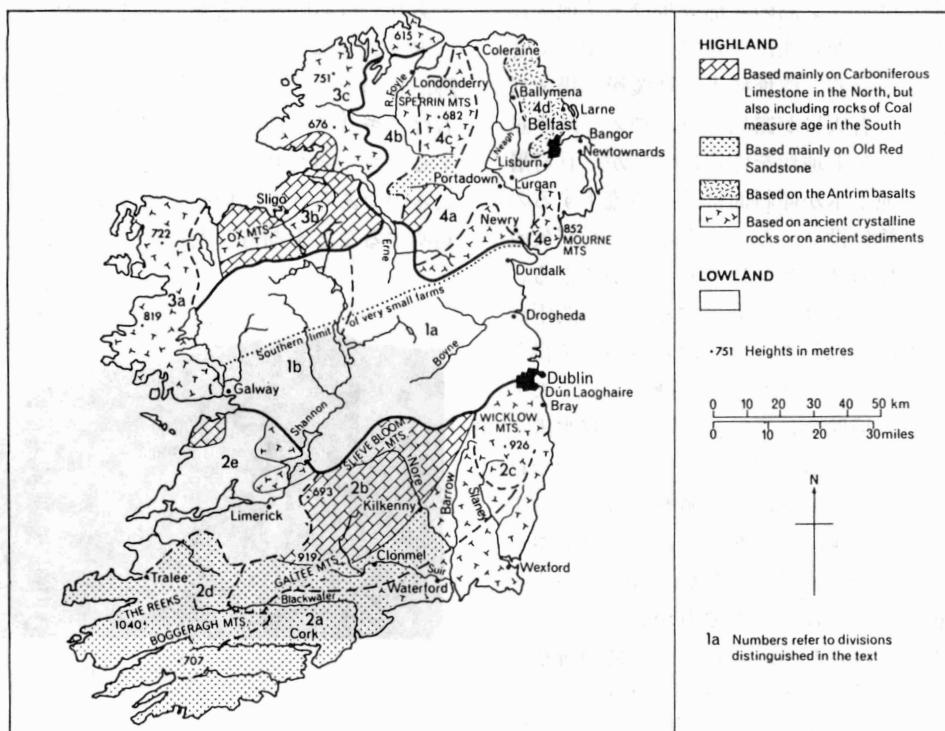


図1 アイルランド自然と地域区分 (G.H.Duryによる)

#### IV. 農業

アラン諸島はアイルランドで最も不毛の地域として残されたところで、過去には森林が茂り、土地生産力も高かったと想像されるが、木がなくなつたことは、降水量の保持に欠け、強い風と石灰岩の風化を進めさせたに違いない。その結果畑の開墾において他地域とは異なる方法にたよらざるを得ないことになった。アランでは適当な平らにちかい場所を先ず選ぶ。その上の土壌は薄くて手で掘むことができない程薄い。風で吹き飛んでしまつたからである。畑とするには、地表面ならぬ石灰岩の表面から大きな石を取り除き、あるものは碎いて平坦に近くなるようにし、大きな割れ目には小石をつめて、風よけと家畜の柵のかわりによけた石を境に積みあげる。次に海岸から海草を運ぶ、さらにその上に良い土を選んで運び覆う(客土する)。すると断面は基盤は石灰岩、その上に海草、砂、海草、土という順になる。

アラン畑では第一の作物は馬鈴薯で、次の年はライ麦を造り3年目は休閑地とする。ここでは、これを穀物輪作(クロップローチション)とよんでいる。馬鈴薯とライ麦は島で消費される。畑は高床式に稲を切り、馬鈴薯を植える。馬耕で耕し、手うえである。このような、貧しい土地でも1ヘクタール当たり15トンの収穫がある。馬鈴薯は1月中旬に種いもを選び、3月~4月に切って植え付ける。7月終わりには収穫される。保存は牧草かライ麦の麦稈でかこい、土で覆う。ライ麦の収穫後の麦稈は屋根の材料か家畜のしきわらにも使う。馬鈴薯の収穫後、秋に施肥をしてからライ麦を播種する。収穫は6月になる。キャベツ、玉葱、レタス等の野菜は、家の回りの小さな場所で作られる。あちらこちらの囲いの中にバスケットを作るための柳が植えてある。

**土地所有：**1979~82土地戦争以前は地主と小作の関係からなり、特に1870年の不作は食料が不足し、地代が払えず、多くの農民が流出した。地主の小作人の立ち退き要求に対し、ゴルウェイもアイレも小作人が団結して戦わざるを得なくなり、1979年3つのFを掲げて土地同盟を結成した。3Fとは、Fair Rent, Fixity of Tenure, Freedom of Saleを意味した。1881, 82のグラットストーンの土地法が英國議会で保障されるにいたり、借

地人とその家族は地代が滞納しても土地に残ることができたし、自分達が権利を他に売却することも可能となつた。土地問題の指導者はパネルで、ついで政治的独立のための運動が開始され、アイルランド自治法案が提出されるが2度も否決され、1914年にやっと成立する。1916年義勇軍の武装蜂起と失敗、その路線でシン、ファイン党の再結成によって民族運動は自治から共和国へと変化する。1922年自由国成立、1937年独立と長い闘の夜は終わりを告げた。農業国アイルの独立への道は土地問題から発展したのであった。

**農家の相続：**家長は息子に技術を習得させ成長すると長男に土地を与える。この長子相続法は長男が結婚するときおこなう。両親は家と農地の経営を引き渡し引退する。このやり方は、しばしばうまくいったとき関係者は喜ぶが、ときに父が年を取ったにも拘らず経営を手放さないで、子供が年を取っても渡さないというものもある。土地がなければ独立できないから年を取るまで結婚できない。つまり、40代になってやっと結婚するというものまでてくる。あるいは、島を出て他の土地へ移住するものもある。

アラン諸島では農民の権利として、土地は公平に分け与えられ、農民が持つ土地面積は7~8ヘクタール、同時に肥料として集める海草を採取するために、海岸の権利を持つ。そして、それぞれの馬鈴薯の栽培できる適地を持つ。加えて、山羊用のための荒れた放牧地、露出した役立たづの土地を持つ。これは大きな規模の農地がなく細分化して分散しているためである(図参照)。

**家畜：**山羊は多くの家で飼われ経済上重要なもので、ミルクを取り皮を売る。牛は牛舎では飼っていない。夏冬ともに舎外で飼う。女性や若者がミルクの缶をもって牛の放牧地へと通っている。乳牛は1頭当たり1,800リットルを超えることがない。家畜は初夏に立つ市が一番多く出荷され、9月28日聖ミカエル祭でも市が立つ。ロバは運搬用で、ドンキーバスケットの中に海からの海草を、収穫時には馬鈴薯やライ麦を運ぶのに使っている。

#### V. 現在のアラン

農業は島の経済に必要だが島民の生活の糧としてたよるわけにはいかなくなってきた。機械化し

たくても面積が少なく耕地が狭く、石の畑で手作業が主となる。19世紀中ごろから人口が減少してきた。長男以外の子供達は島を出る。また息子が死んでしまった場合、甥や従兄弟に土地が渡される。総人口でみるとイニシモアの1901年は1,959人、1951年1,019人、1971年864人で現在800人、3島では2,863人から、1,768人、1,486人、1,365人となった。この数字からみるとかぎり、減少しているが超過疎とはいえない。農家数はこれから近代化に近づく方法が見いだされる段階にさらに進むか、あるいは兼業の変化により農家数はある程度維持しつつ、いずれかの道を選ぶことになるであろう。なぜならば、アランの農家数は1927年373戸から1960年には349戸、減少は年に0.7戸、減少した農地は他の農家のそれに加わって、20ヘクタールを越える農家が増え、3戸は40ヘクタールを越えた。この数字は以後17年間変わっていない。1957年政府は各部局委員会を作り西海岸の小農経営の検討にはいって平均的農家規模の増大がない限り小農の生活規模の向上はない、農民が12ヘクタール以下の場合は生活はできないとしている。

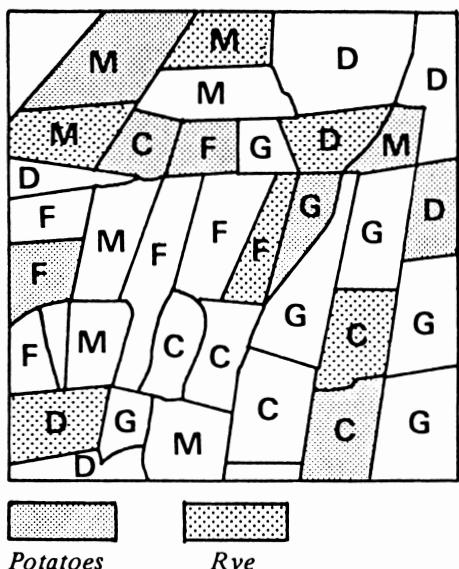


図2 アランの耕地

上の図は島の28haの1セクションを表わしている。5個の農家によって所有されている40区画の畑がある。それぞれの畑の所有者は、この地図ではイニシャルで表わされている。

アランの30戸の農家は1エーカ(4反)の芋畑しか持っていない。173戸は12ヘクタール以下で耕作条件は悪く農業収入は低い。EC加盟によってさらに条件はきびしくなってきた。小規模零細経営の中での兼業化が、最近日本にまでPRする“緑あふれるホリディの島 Ireland”なる冊子を大使館で発行するなどその中にアイルランドそしてアラン諸島が要領よくまとめられている。このことは観光に重点を移すことによって地域の活性化を目指している姿とみるならば、農業を別にすれば北海道、いや”リゾート列島日本”的のレジャー産業とどこが異なるのであろうか。小さな島の3つくらいと思うが、そこにある文化遺産を大事にしながら、NHKなどを誘致して番組を作らせる積極性こそ、アラン諸島を世界のアラン諸島へと進めることになるのであろうか。住んでいる島民が幸せになる方向がみさだまればそれで良いのであるが、贅沢な注文になるであろうか。美しい緑と海草と石灰岩の垣根のアランが社会経済的に豊かに発展することを期待するものである。

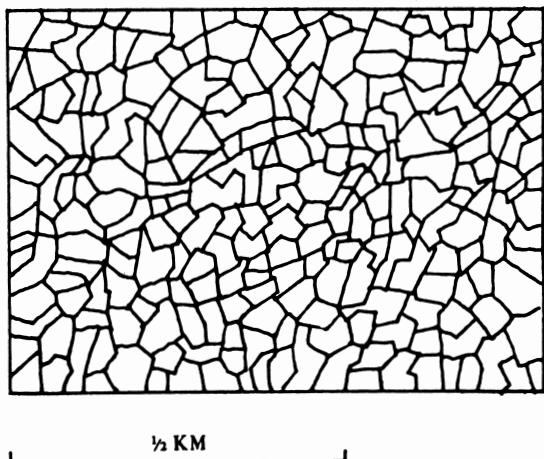


図3

分散されている小さな耕地に特長がある。左の図は石灰岩の積石で区画された小さな耕地の集合体である。

## 参 考 文 献

- Oilea' in A'rann a map and guide Co. Galway.  
Field and Shore Daily Life and Traditions The O'brien Press 1990.
- Aoworld of Stone The Aran Islands The O'brien press 1990.
- G. H. Dury (1973) : The British Isles
- Frank K Mitchell (1976) : The Irish Landscape
- Jean Mitchell (1962) : Great Britain Geographical Essays
- J. Wreford Watson (1964) : The British Systematic Geography
- J. T. Coppock (1976) : An Agricultural Atlas of Scotland
- J. T. Copcock (1976) : An Agricultural Atlas of England
- A. Reffay (1979) : Le Royaume-uni et la République d'Irlande
- Agricultural Food Development Authority (1988) : Irish Journal of Agricultural Economics and Rural Sociology
- Central Statistics Office (1989) : Statistical Abstract